

全国多施設前向き経口抗凝固薬内服中に発症した脳卒中患者の登録研究

木村和美

日本医大 神経内科

【研究の背景】

心房細動による脳梗塞の予防に、DOAC が登場したが、DOAC 内服中に脳梗塞や脳卒中を起こすことがある。しかしながら、その脳梗塞や脳出血の患者特徴は分かっていない。

【目 的】

抗凝固薬(DOAC とワルファリン)内服中に脳梗塞や脳卒中の患者特徴を明らかにすることである。

【方 法】

全国 20 施設で、抗凝固薬内服中に脳梗塞や脳卒中患者を前向きに登録し、その特徴を明らかにする。

【結 果】

脳梗塞患者も脳出血患者も高齢であり平均 80 歳であった。

脳梗塞は、ワルファリン内服者に比べ DOAC 内服者は、発症時の重症度が軽症であった。

DOAC 内服者の脳梗塞は、4 人一人、不適切使用であった。

脳出血は、ワルファリン内服者と DOAC 内服者は、発症時の重症度が同じであった。

【考 察】

抗凝固薬内服中の脳卒中は、高齢者において多いことが明らかとなった。これまでの第三相大規模試験では、高齢者のデータは少なく、リアルワールドとは大きくかけ離れている。今後、どう、高齢者において脳卒中を予防するかが大きな課題である。

【臨床的意義・臨床への貢献度】

抗凝固薬内服中の脳卒中は、高齢者における抗凝固薬内服が問題である。今後、どう、高齢者において脳卒中を予防するかが大きな課題である。

【参考・引用文献】

Sakamoto Y, Okubo S, Nito C, Suda S, Matsumoto N, Nishiyama Y, Aoki J, Shimoyama T, Kanamaru T, Suzuki K, Mishina M, Kimura K. Insufficient Warfarin Therapy Is Associated With Higher Severity of Stroke Than No Anticoagulation in Patients With Atrial Fibrillation and Acute Anterior-Circulation Stroke. *Circ J.* 2017 Dec 21.